

侵略反革命の拠点  
—三里塚空港粉碎!

鉄塔決戦へ  
怒濤の進撃を

≡ 共産主義革命戦線 ≡

■ 鐵塔死守、竹南港閉止、

■ 侵略反革命の拠点ニ三里塚の毒粉砕、

■ 9/6 戦闘を継承し鐵塔決戦に  
武装進出せよ、

■ 社南派、社会排外主義を粉砕し  
右翼日和見主義をばねのけ

全口政治共闘の総力ぞ  
三里塚闘争の大爆発をかちとれ、

■ 共産主義革命戦線は  
反対同盟と固く連帯し

鐵塔死守を戦取せよ、

■ 日帝の朝鮮侵略反革命を  
国内戦に転化せよ、

ニ三里塚の鉄塔死守決戦へ△△

■ 朝鮮人民の決起に呼応し 三里塚斗争  
の武装的發展を確し取り

----- P 2

■ 侵略反革命の拠点ニ三里塚の毒粉砕△△

----- P 5

■ 9/16 戦闘を継承し、鐵塔決戦の大爆  
発を△△

----- P 8

■ 一切の清算主義、日和見主義を訣別し

4/13 4/17 三里塚総力戦へ進軍せ

△△  
----- P 11

■ 三里塚斗争年表  
----- P 14

■ 資料・三里塚周圍の地図



里塚に武装進軍した。この敗北を受け継ぎ、我々も3・31評議会の集会后4・17総行決起をもつて三里塚決戦を共に闘い闘うことを許さる。

朝鮮人民の決起に呼応し、三里塚斗争の武装的発展を勝ち取れ！

一月九日、日南・空港公園に、機動隊3500名の進軍をもつて鉄塔破壊道路の建設に着手した。それにも先立つ7日、福田は、「成田闘争」を当面する内政の最優先課題とし、オリゴックケミの「国家事業」として強行すると叫んだ。

三里塚斗争こそ、一闘して国民・労働者主体の勝利を達成した。主体的能動的攻撃的の闘いであり、それ故「日本におけるベトナム戦争の始

今日、朝鮮人民の闘いは、北と日南の新植民地主義の専横下で、急速な農村―都市を貫く経済社会的危機を契機として、諸階級・諸階層の階級深部からの統一闘いに燃りとして爆発するところにいる。反共独裁、民主祖国を基軸とした朝鮮人民の決起は、不可避的だ。あらゆる矛盾の根源、日南の新植民地主義と、日・米南の南北分断を突破する民族解放、民主主義革命闘争として存在し、北に代わる社会主義継承革命と闘う。一個の革命斗争へ成長するべき闘争を争んでいる。こうした朝鮮人民の決起は、オズカ

戦後の、民族解放斗争の社会主義革命との行

るのだ」と正しくも認識した日南の。その全体重をかけた、三里塚斗争への反革命戦争布告を行なった。そしてそれはなかりではない。三里塚に燃起された、日本革命的左翼運動への宣戦布告以外の何ものでもないのだ。

そこには、革命的情熱の端緒的開始の中で、三里塚斗争こそ、あらゆる愛派・諸潮流を、革命な反革命を、解体な破壊のふるいにかけざる革命的試練、正念場である。三里塚決戦をいかなる立場で、どのような観点から闘い抜くのか、ここに、70年代后期―80年代を貫く日本階級斗争の構図が、先行的に凝縮されることも過言ではない。

75年4・30ベトナム民族解放、社会主義革命戦争の歴史的勝利を突破口とした、マロレタリファート人民の攻撃は、70年代中期、米南を断つての南北分断を基盤とした戦后世界体制を、根底から打ち破る闘いである。

それ故、帝國主義は、米・日「韓」反革命体制をもつて、この朝鮮人民の決起を圧殺しようとしている。昨年7・8日米防衛協力小委員

は、板門店戦争挑発を基軸を完成した臨戦体制は、今日、日本軍の強化、日―韓「共同戦争」体制の編成として、より予密化されている。また日南は、入管体制の強化をもつて、北と呼応して、斗争を日朝鮮人民を圧殺し、更に日南本国内の民族非外主義、治安維持攻撃を強めている。

戦后高度成長基盤の解体、南国主義間の斗争と過剰資本の累積、さらには出口なき帝國主義の危機の中で、日南は、この反革命体制の上、一切の矛盾を朝鮮侵略反革命―新植民地主義の専

「戦後」の状況について。

一方、60年代前半、ベトナム革命戦争を受け  
日米同盟・日米の「対米」政策の階級的階級縮  
成の戦後体制に対し、日米は先行的な反革命攻  
撃と、それを基礎とした半ヤ、半軍制を頂点とし  
た差別・排外主義国家体制、軍事・警察・官僚  
機構の再編強化を「軍事的支持」に、そして、  
社会主義・社会排外主義を「社会的支柱」にした  
侵略反革命体制を活動させているのだ。

こうした中で、我々は、革命階級の最も核心  
的の問題として、「帝国主義と民族植民地問題」  
を捉えなければならない。これはヤマト、今  
日の朝鮮人民の闘いを、コミニテルニ民族テー  
ザー中国革命ーベトナム革命の連鎖の中で、社  
会主義民族革命と連結した、民族解放・民主主  
義革命として捉えねばならない。ヤマト、日

帝の侵略反革命の教化の中で、レーニン主義

を批判し、建軍一社帝・社会排外主義批判として  
奮闘することである。我々はこの闘点を、オス  
イニターにおけるレーニン主義の未成熟として  
格納し、とりわけ先達国革命主義の立場として  
物質化していかなければならない。

かかる闘点からの革命的政治斗争の組織化と  
その敵対的相闘的結合の中で「大衆にたいし  
て、さらさらさるだらう」の斗争にたいして  
「大衆に大衆を指導する組織をつくること」  
（レーニン）「バネチガ」の斗争として我々が  
争い相互的的組織をいかなばならない。その  
わが革命情勢の接近の中で、帝國主義批判及び  
これと一体的に社帝・社会排外主義批判を徹底  
し、日本階級斗争の内乱的成熟を敢行し、日本  
の朝鮮侵略反革命を国内戦に激化し、階級闘争  
——P7へ続く——

### 侵略反革命の拠点—— 田中家以エを分析せよ——

今日、日帝は朝鮮侵略反革命の激化の中で、  
ヤマト、侵略反革命の拠点——「田中家以エ」  
の活動の場としている。そもそも「田中家以エ」  
計画が現実化されたのは、55年、日帝の朝鮮侵  
略反革命の激化——日「朝」条約締結と前後して  
であり、今日、日帝は侵略反革命の「空の拠点」  
として大空を飛翔しているのである。

「田中家以エ」は、ヤマト、日帝の朝鮮一マジ  
ア侵略反革命の軍事的・経済的拠点、ネットワ  
ークの要約環に他ならない。ベトナム以降、と  
ころには「田中家以エ」を「田中家以エ」  
と「田中家以エ」の油、を「田中家以エ」  
「田中家以エ」への飛行の中で、大空を飛翔する

た軍事展開は不可欠であり、それを可能とする

のが大空を飛ぶのだ。日帝は今、全国に大空を  
港をつくり、国民の共同管理をもって有事と事  
は別を格納しようとしている。今日日帝の活動の  
場は、田中家以エの場である。田中家以エの場は、  
四千メートル着陸場の使用不可能は、かかる朝  
鮮半島をめぐって致命的といえるのだ。

そればかりではない。マルクス・エンゲルス  
が「社会主義宣言」において資本主義的生産様式  
への根本的変革の衝動として、近代的大衆  
手段体系は極めて重要な位置を占めるのである。  
レーニンが「ロシアにおける帝國主義への昇進が、  
鐵道建設と不可分である」とを指摘した。今日  
この鐵道の位置を占めるのが「田中家以エ」である。朝  
鮮半島への飛行の中で、大空を飛翔する

い、イマが世界の空の市場に侵襲するために成田  
前港を」といふキャンペーンに明確なついでに、

日帝はマジマ侵略—資源—市場収奪の経済的テ  
「として成田前港を建設しているのである。

成田前港はオニニ、戦後の高度成長基盤の角  
域の中で日帝は産業—地域—社会用編の一環を  
占めるものである。重化学工業を基軸とした戦  
後の高度成長の崩壊の中で、日帝は新全統一列  
島改道論において「重化学から知識集約型へ」  
を基盤に産業用編—地域用編を進行してきた。  
この用編が、KIDC構想に示されるように重  
化学部門の対外投資や大陸開拓—

構想に  
示される新たな資源収奪を前提にしたマジマ侵  
略の核となるものである。これに見合うよう  
に日帝は交通網—通信網の用編、すなわち札幌  
—東京—大阪—福岡の基幹国際空港の建設と、

が問われているのである。

オニニ、日帝は三里塚斗争圧殺をもって全面  
的国内侵略及革命体制の構築の突破口として  
いる。

三里塚農民の斗いこそは、一貫して、「農工  
困乏」を始りとした日帝の「開発」イデオロギ  
ー攻撃をうち破り、一切の公共性の名の下での

日帝の暴力と対峙し、これをうち破ってきた斗  
いであった。オニニのこのことによって、全国に  
「オニ、オニの三里塚」を主力とし、全国の農  
民運動、住民運動、階級斗争の先頭に立つ斗い  
である。

これに対し、日帝は、国益—公共性のキャン  
ペーンと、昨日園遊会での大塚発言に論的に示  
される天皇制イデオロギー攻撃の下に、しかん  
それでは空破し得ないが故に、あらゆる暴力、

全国新幹線網の建設を軸に地方都市開発—地域  
開発を進行している。

とりわけ「成田前港」は首都圏圏外都市の一  
環として、筑波学園都市都市、産業工業地域と  
一体のものである。

同時に、この地域用編は一方で農林業—総合  
農政の名の下での大規模集地構想をもって、こ  
一部の農業の経営拡大、機械化と、他方大部分  
の農村の解体、ホカセギを軸とした租税基金  
増徴力と、新たな工業用地を創出しようとする  
ものである。

今日、こうした農民の農地からのたたきだ  
切り捨てに対し、様々な農民の主体的抵抗が相  
始され、また「書」に対し、農林業、住民の  
斗いが強まっている中で、日帝にとって、これ  
以降の地域用編—農業用編を進行しようとするか

強権発動をもって、鉄塔建設に引きずり込まれ  
たのである。

日帝は鉄塔をあらゆる暴力をもって倒し、日  
本階級斗争の最前線、拠点、三里塚斗争の解体  
圧殺をテコに二面的な予防反革命—既防社会を  
化攻撃と、侵略反革命へ突き進もうとしている  
のだ。

こうして、オニに鉄塔建設は、主要の四面  
にわたって、日帝の侵略反革命を粉碎するか否  
かの重大な分岐点として位置するのである。

—— P4より続き ——

組織する共産同—革命戦線の現在の端的な総  
力戦として、三里塚鉄塔建設に位置するのであ  
る。

9/16戦闘を継承し、併呑  
塔石は戦の十人爆発を

三國決戦を以ていふにあつて、次に確認  
せねばならぬことは、9/16を境に三國  
十一年に亘る軍力斗争の地平を断平防衛しぬ  
ことである。今日、カーネギー次代執行阻止  
斗争を支えた『新』陣の急進的イネルヤーは  
解任された。(4)トロントとする過激派、中  
国主義者になり、何れも三國十一年の斗  
争からその精神的環境としての9/16の意義を  
断平防衛一線軍力中心にシフトすべきである。  
68年の9/16、三國決戦は三國併呑(マ  
ルの三國併呑)と三國併呑(マ)を以て成り  
、二國併呑(マ)と三國併呑(マ)は、当然ならぬ  
ところから9/16の分岐を導出した。三國  
併呑(マ)は、三國併呑(マ)を以て三國併  
呑(マ)とした。三國併呑(マ)は、三國併呑(マ)を以て三國併呑(マ)とした。

下対し、若狭海沿を先頭とした政府、公団は徹底  
した分断、切り離し行動を行い、そのなや  
みるや機動隊による軍力的圧迫を開始した。9  
年10月10日、公団の強制外郭制断に対し、個人  
行動隊、老人行動隊を新たに組織した反対同盟  
は、ロケット、自らの凶体を以てはりつけ  
力の凶器戦を奮戦し、公団に痛打を与えた。  
この軍力斗争の地平を切り拓いた10/10斗争  
の中で、自らはその本質を明らかにした。彼等  
は機動隊の凶器シロロに対し果敢に斗い抜いて  
いる。軍民に面かい、各人各々の非難ののらむ  
いとよこしこと、斗い抜いてのこつて歌をうた  
いながら逃げたのである。この斗いは、思  
内に、あの10/8の激闘の翌々日小敵ながらも  
斗い抜けた。カーネギー次代執行阻止を先  
頭とした全軍の革命的意志は最後の最後まで

軍民と共に軍力戦闘を闘った。

12月15日、反対同盟は自民を正法に非難し、  
それにも立つ11月30日、反対同盟と全軍一  
戦は本格的な斗闘関係を結び、日本総統斗争の  
最前線へとおどりだしたのである。

68年にはいるや、斗いは激烈と化した。2/26  
26/3/10/3/31の三波に亘る軍力斗争、公  
団攻撃は、機動隊を圧倒し、政府、公団を根底  
から揺るがしたものである。それ故に自らは、す  
べてに三國併呑(マ)と、破防法、騒乱罪の適用  
準備をもつて、斗いの圧迫をぬらした。とりわけ  
10/10の闘争を境に、た軍中強圧の中で反  
対同盟は生活そのものをとりこみ、団結を強  
化し、武装を打ち取ったのである。二つ  
した軍力斗争は、自民、公団に大打撃を与え、と  
りわけ70年論断立入制断阻止斗争、三國併呑

は、完全な反対同盟の勝利であった。

ななる三國併呑斗争の全地平を踏んだ斗い、そ  
れが3/10/3/31の強制代執行阻止斗争、戦中、  
9/16東峰戦斗であった。2月カーネギー次代執行  
阻止斗争におけるバリケード(若)とその周辺の

斗い、日本のベトナムを宣言した7月15  
日代執行阻止斗争は、9/16東峰機動隊完全  
人戦闘へと受けつない、敵軍力をして、日本の9  
ベトナム戦争のはじまりだといわしめたので  
ある。この9/16戦斗は、カーネギー次代執行阻止  
争の若一周辺の戦斗の教訓と、全口からの  
闘争の結集の中で、人民の海を、一時的であ  
れ、機動隊を分断し、軍事的勝利はせん  
を可能にしたのである。  
我々はこの9/16戦斗を単なる戦術的勝利一  
般におしよめ、あげくの果てカーネギーの如

く、革命の一段主義の道をたどってはいけぬ。南の侵略と革命との対決を避けたる口「タリ」  
「と清國」下り、世に無窮の苦難をもつて自然に国際主義と組織された「タリ」としてその  
發生に起るべきことを、断乎として批判し  
扱わねばならぬ。

9/16 戦いは、9/10、は以降の「口」  
りや国際主義と組織された「タリ」としてその  
中心に在る、60年代日本階級斗争の縮図であ  
った。60年代前期日本階級斗争は、いわゆる「  
5年体制」と称される、戦後の政治構造—附年  
日本生産性本部の組織化、香斗構造の確定、二  
れと対応して、保守合同、左右社会党の統一、  
其後の全権と口「野党」への転身の一の動向の  
中、既成事案の左派という枠を突破した斗  
いの開始であった。従ってこの斗いは不可避的に  
「平和民主主義」の下での社会の徹底した一  
国主義—城内平和主義、議会主義を徹砕し、日

南の侵略と革命との対決を避けたる口「タリ」  
国際主義と、実力斗争、暴力斗争を復権させた  
のである。オーストリアとオーストリアとして、  
全共斗、反戦、街頭斗争として爆発した60年代  
前期階級斗争の最もすぐれた縮図こそ、71年9  
/16 だったのだ。

それ故、我々は、今日の9/16の一般的前  
衛、再現に一面化させるのではなく、9/16を  
不可避たしめた。60年代前期階級斗争の政治  
的質の対自化、とりわけその中核、政治的表現  
であったオーストリアの歴史的意思と党的敗北  
の相対的止揚—三全総、総選挙路線の観点から  
継承—を整理していかねばならぬ。即ち、三  
全総の党的観点からする党的武装を多量に、  
議会主義を承—右翼、日和見主義潮流との野派  
斗争、政治戦斗として、あつちやる斗つる口「タ  
リ」を人民を組織し抜くことである。

一切の清算主義、日和見  
主義と訣別し  
4/3—4/17三里塚総力戦  
へ進撃せよ！

革命的清算への端緒、すなわち帝国主義の反  
動的危機と階級矛盾の噴出、階級敵対の時代は  
それ故、諸階級階級層の政治的分解と組織を  
急務に迫っている。オーストリア主義は、たも  
のなか中間派へ、中間派である、たものが社労系、  
社会排外主義へと転落を期をしているのだ。

この9/16年代後期、一定の戦闘性を保持し  
てい部分の内から、や日、社労系へと投降、  
屈服、合流するものが生まれている。天皇朝  
の崩壊をめぐる、その精神の伝播、たこの分岐  
点、今書簡過程—三里塚戦をめぐる、たこの分岐

鮮明になりつつある。今日の三里塚をめぐる構  
構は、オーストリアへの四角闘—参院選へのブルジョア  
政治過程の三里塚闘争をたつた渡すのや、それと  
も、政治的革命的な政治闘争として組織しぬくのか  
の二つの路線の非和解的対立、激化を待たせてい  
る。第4インター、共産党に代表される前進の  
傾向は、オーストリア、9/16を標榜とした三里塚闘  
争の暴力闘争、暴力闘争としての地位を歴史的  
に清算し、オーストリア、自然発生性への拜跪、自然  
発生的な諸闘争の総和、カンパニア主義へ鉄塔  
史戦を流し、オーストリア、オーストリア、オーストリア、  
オーストリアを参院選後に引いたのは、オーストリアの政  
治的勝利を獲得し、福田政権を一層の政治的窮  
地に陥らねば闘争を組織することである。「一」統  
一「一」統「一」統「一」統「一」統「一」統「一」統「一」統  
自然発生的エネルギーを、参院選—「社共政府





62	11	國慶(池田内閣)「オニ國慶空港建設」の方針決定	66	10	2	三里塚空港船回公園警備隊決起大会 成田市官クラブ
65	11	富里に内定 反対運動激化 臨時新東京國慶空港調査協議会発足(座長 橋本官舎長官)	67	2	15	三里塚 芝山連合空港反対同盟 三神連環日本郵政設立
66	3	佐藤首相 左納干筆具知事 三里塚御料牧場築を提示	8	15		反対同盟 御料牧場の測量阻止 測量隊襲撃
6	28	三里塚空港反対同盟結成 1,000名	10	10		三里塚新國慶空港新幹線 後制測量 塞門阻止 8・15平和集会
6	30	三里塚設置新幹線全組合員大会 (芝山連協主催) 1,000名	10	10		公園 機動隊200名で外郭ワイ
7	4	閣議 三里塚設置 決定	11	3		ウチ強行 反対同盟1200名で阻止行動
7	30	新國慶空港公園正式発足	12	15		空港新幹線決起大会 全警備 反
8	29	反対同盟 一垣運動隊200名	12	15		戦青年会 反対同盟の初々共闘
9		条件派「成田空港対策部若協議会」 「成田國慶空港条件斗争連盟発足」	68	2	26	反対同盟 共産党排除決定
						三里塚空港反対決起大会 反対同

68	3	10	盟 全警備共催 成田市官クラブ ト 3000名	69	3	30	塞門阻止全国総決起集会 三里塚 オニ公園 8000名 反対同盟は ハル 竹ヤリ カマ 木材で武装 公園内内の調査 工事開始は困 難と発表
4	月	4	機動隊口デモ リニテ 不当逮捕 を連日シカケてくる	8	17		公園の「4月開港」「5月開港」と いったガマン的マドバルーンに対 する徹底的なシイとして全国警備 隊 5000名
3	30		反対同盟 全警備共催 空港反対 決起大会 三里塚オニ公園	9	9		反対同盟員 御料牧場閉場式に突 入
6	30		攻撃をいねえすため全国総決 起大会 青年隊 竹ヤリカマで武装	9	9		8・17斗争を口実に機動隊300余 名を動員し 同盟員名をいらい ろ七不当逮捕
8	24		反対同盟の団結強化をめざし 同 盟単独の武装デモ 1000名	9	10		反対同盟650名で武装し陣在 抗議デモ
11	24		三里塚空港新幹線 ボーリング調査				

69	9	28	工事着工阻止現地総決起委員会 反対同盟主催 700名
70	9	30	オノ次強制測量阻止斗争 「3日同戦争」 反対同盟数前線斗争 逮捕者61名
71	11	12	小川明治同盟副委員長死去(オノ) 友和知事 保和宮系長官 橋本運輸大臣会談 強制代執行を2月22日執行と決定
72	1	15	オノ次強制代執行阻止斗争 反対同盟は 地下壕にたごもり 立木に身体を鎖を縛りつけ 家族ぐるみで斗争
73	2	19	1. 5次阻止斗争 農民被弾決戦 東峰十字路戦斗 機動隊一個大隊を二班 逮捕者375名 重軽傷150名
74	5	15~14	オノ次強制測量阻止斗争 調査班立入りを突打阻止 前夜から団結小屋にたごもり 闘争は支援学生 幹佐者300名と

71	9	19	公園 代執行中止と偽り 大木とオノ次代執行強行
72	3	15	9.16以後 機動隊は同盟一斉行隊 支援に對して テロリンチ 別件不当逮捕を行ない
73	5	11~10	72年6月6日まで5次に亘り117名を逮捕 9.16統一被占団56名 岩山た鉄塔完成
74	6	10	二期工区強制立入測量阻止斗争 鹿島 神栖 潮来の3町議会 燃料輸送反対決議
75	2	20	機動隊30数名 鉄塔所江隊にテロリンチ 全身打撲 腰椎骨折 内臓裂傷など重傷を負わせた
76	1	27	75.2.20 資材輸送道路工事着工阻止斗争
77	3	25	3.25 公園 「年内開通断念表明」発表
78	4	27	4.27 瀬和副委員長除名
79	8	21	8.21 鹿島三エツ 燃料輸送阻止委員会
80	10	3	10.3 鉄塔決戦勝利現地委員会 三里塚オノ公園 8400名
81	12	12	12.12 園遊会席上 天皇ご口ご下 公園係長大隊に「開港」を指示

空港関係関係会議席上、首相福田は「成田開港を、内政の最優先課題」とする事、そのために「金に糸目をつけろな」と指示、官房長官園田も「オリンピック並みに最大の国家事業として行う」と確認

1・19

銚子破壊道路建設阻止斗争

2・4

機動隊、たき火をしていた責任者2名を、テロ・リンチの上不当逮捕、機動隊員の中には、酒に酔い嘔吐しているものもいた。

2・6

三里塚空港新築、大銚子決戦勝利現地総決起集会、旧岩山小ケラン、440名

機動隊、大坂からきたバズ運転子

77

に対し、検内中バスから引きずりおろしテロ・リンチを加え一箇間あげたを責めさせる。

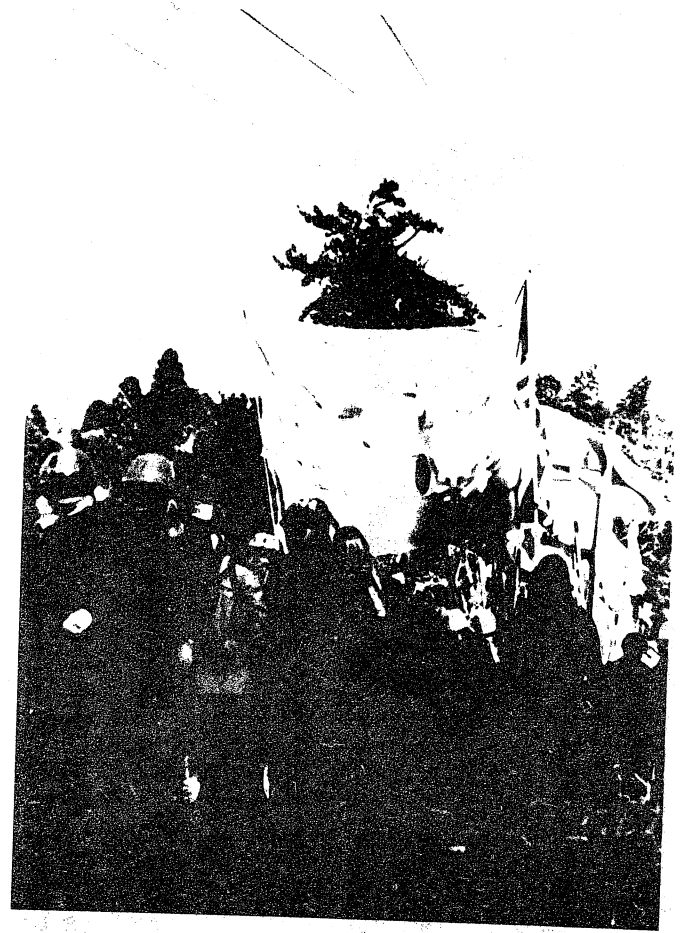
反対同盟、支援、周辺住民への署名、カンパ情宣。

3・27

銚子決戦勝利現地より派斗争、三里塚オニ公園、4300名。

3・31

銚子決戦勝利将校総決起集会、牛込公会堂、反対同盟を先頭に、幹部500名結集、銚子決戦勝利の固い意志一致を勝ち取る。



反対同盟と共に海軍する革命戦線



復讐反革命阻止全国政治女子  
赤ヘル武装部隊

# 4.17 三里塚鉄塔決戦勝利全国総決起集会

## 主催 三里塚芝山連合空港反対同盟

4.13 鉄塔決戦勝利革命戦線総決起集会

あいよう 共産主義者同盟

10時半より 南形庁政会館

# 游撃

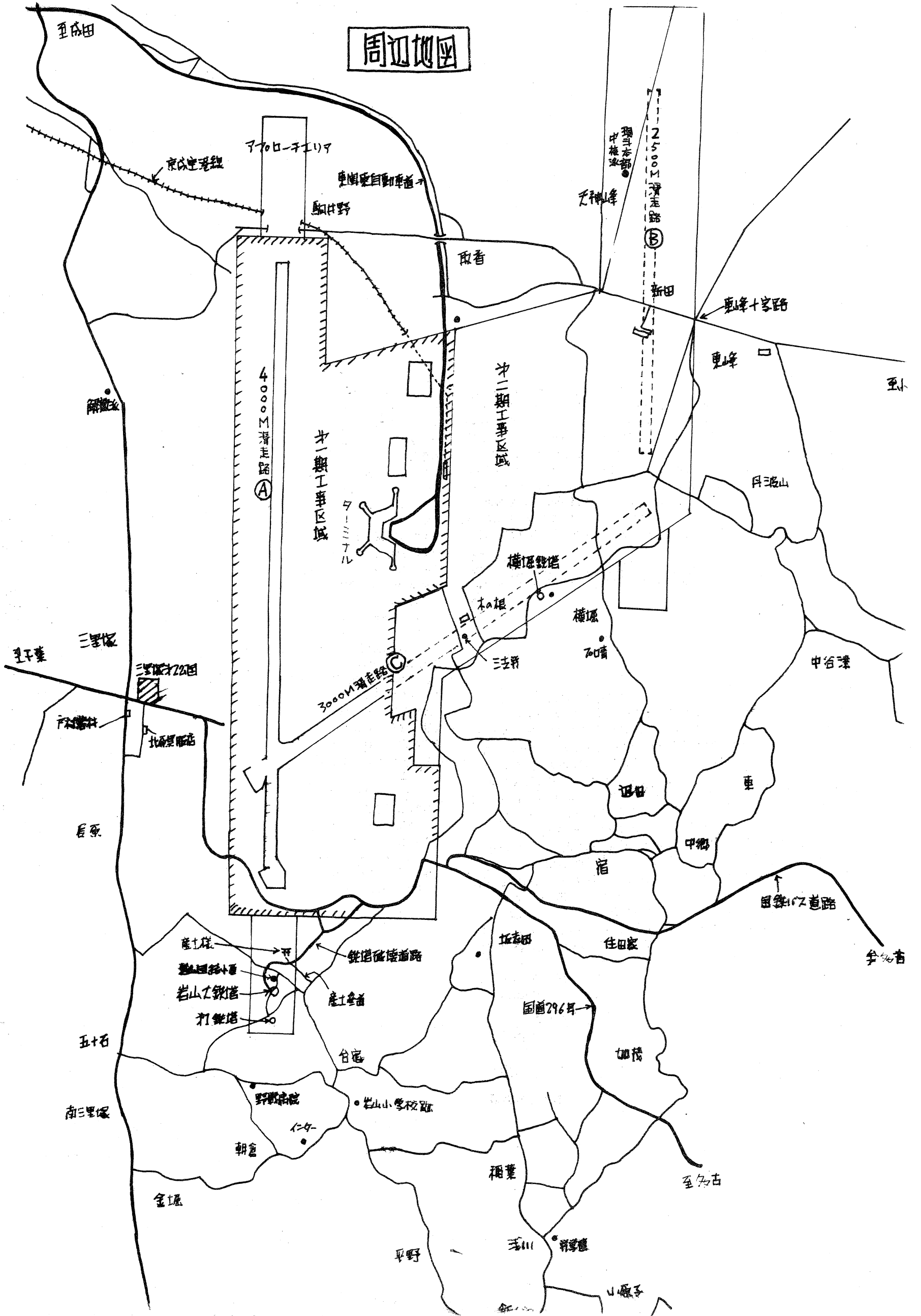
マルクス・レーニン主義に貫かれた革命的労働者学生の鋭利な政治的武器！ 革命党と階級、人民の直接的紐帯！ 帝国主義心臓部へ向けた総蜂起を組織する宣伝・煽動の指針！ 共産主義者同盟政治機関紙『游撃』を読もう！

毎月一回五日発行！

年間（一二部）予約購読料一五〇〇円

定価一部一〇〇円

# 周辺地図



至成田

東京空港線

アパロ-子イリヤ

東横自動車道

駒井野

取香

天神峰  
新田

2500M 滑走路

東峰十字路

東峰

至小

解館

4000M 滑走路

第一期工事区域

第二期工事区域

丹波山

横塚鉄塔

和根

横塚

石嘴

中谷津

至千葉

三里塚

三里塚公園

本郷村

北原駅

長原

3000M 滑走路

三ツ井

沼田

重

中郷

宿

国鉄17号線

至古

鹿土塚

野影小学校

岩山工鉄塔

打鉄塔

鉄塔破壊道路

鹿土塚

住田家

国道296号

住田家

加茂

至古

五十石

南三里塚

野影病院

岩山小学校

朝倉

金塚

相葉

平野

三川

野影

山塚



# 公団、曉の包囲作戦

## 成田空港 第二鉄塔 整地即撤去へ布石

新東京国際空港公団は二十一日早朝、成田空港第二鉄塔の完成に伴う整理として第一鉄塔包囲作戦を強行、機動隊四百人が守るなかで第二鉄塔に延べ四百名のバリケードを築いた。このため、急を聞いて駆けつけた反対派農民や学生といわゆる「おらり合」が押し寄せ、学生による作業者への投石もあった。大きな混乱もなく、正午過ぎ作業を終えた。しかし、第二鉄塔周辺はバリケードによって完全に包囲され、町道台階大塚から成田までの道路はけが壊された間となり、バリケード

内の整地作業が終わればいつでも鉄塔を撤去できる状態となった。午前六時、空港公団は機動隊四百人をガードマン十一人、作業員百三十五人の大部隊を編成して第二鉄塔周辺に集結、機動隊のタテに守られて約四のバリケードをつまぎと設置していった。

機動隊中隊は成田中団結小屋の警を告げるサイレンが鳴り響き、反対同盟の戸村一作委員長、北原敏治事務局長、内田寛二行動隊長らと機動隊が早くかけつけ、公団職員に機道を閉鎖しての抜き打ち作業を抗議、機動隊も守の壁のあがりを見る計画だが、機動隊での警備体制はすでにその場所がなくなってしまう苦しい立場に立たされることも、この包囲作戦によって第二鉄塔周辺は公団側によって完全に包囲され、機動隊と鉄塔もけがらなく壊される状態に近づいた。

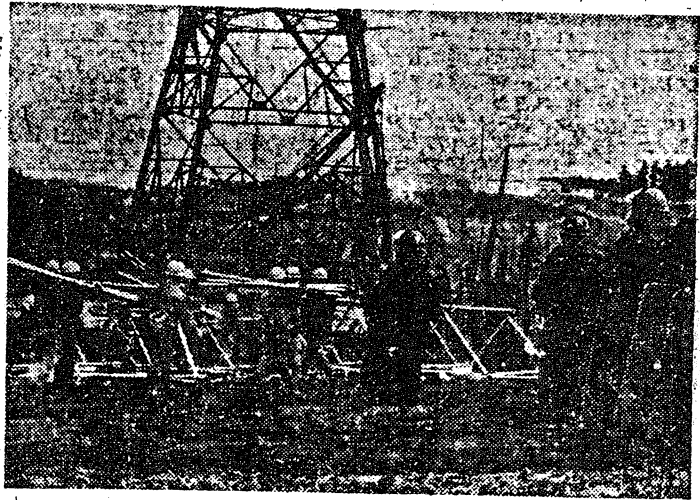
公団側は、第二鉄塔の機道をはさみ、北原、戸村、内田ら機動隊長を予定して三月中には第二鉄塔の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

戦後、二十二人を筆頭に合計百五十七人が集結、作業の阻止を図ろうとしたが、作業のピッチが早いとの前面で規制する機動隊のタテにはまれ、前にも後ろへも動きがとれない状態にされた。

公団は用地内に入っているとの理由から鉄塔下にあった食糧車をいち早くトラックで撤去した。また、第二鉄塔を閉鎖して周辺がシワシワと包囲の輪を締め、第二鉄塔周辺はバリケードで固めた。こうしたなかで、反対派農民らは鉄塔下に積んであったタキ火用の燃料を作業員がかりに移動するのほめてのはかと抗議を続け、また、鉄塔下の機道を閉鎖するのは農民の生活権を侵害するものだと叫ぶが、機動隊は公団職員もほとんど受け付けなかった。

このため、山岡聖山町長、八九七二二、同盟員、岩井正雄らもが機道で機道を突破しようとはかり、機道に上ったバリケードを撤去、学生らといっしょに進もうとしたが、機動隊ははまれとけり合いが続き、機動隊のタテにつける音がなった。

戸村委員長を先頭にして「一回路も整備しない、機道閉鎖の連



「バリケード」で鉄塔包囲作戦を進める公団職員

そのなかで、延べ四百名の学生らの投石の騒ぎが起きた。こうしたなかで、バリケードは機道閉鎖に導き、第二鉄塔周辺はバリケードによって完全に包囲され、機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

ための機道の作業であることは否定しない。

午前十時、千分さから機道撤去の準備作業は大幅に遅れ、バリケードは機道閉鎖に導き、第二鉄塔周辺はバリケードによって完全に包囲され、機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

公団側は、第二鉄塔の機道をはさみ、北原、戸村、内田ら機動隊長を予定して三月中には第二鉄塔の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

# 機動隊の暴行認める

## 千葉地裁 慰謝料支払い命令

成田空港包囲作戦の被害を受けた市民が、千葉地裁で機動隊の暴行を認め、慰謝料を支払うよう命令された。判決は、四月十八日、機動隊が機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。機動隊は、機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。

判決は、四月十八日、機動隊が機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。機動隊は、機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。

判決は、四月十八日、機動隊が機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。機動隊は、機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。

判決は、四月十八日、機動隊が機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。機動隊は、機道閉鎖を強行したとして、山岡聖山町長らに賠償を命じた。

機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の

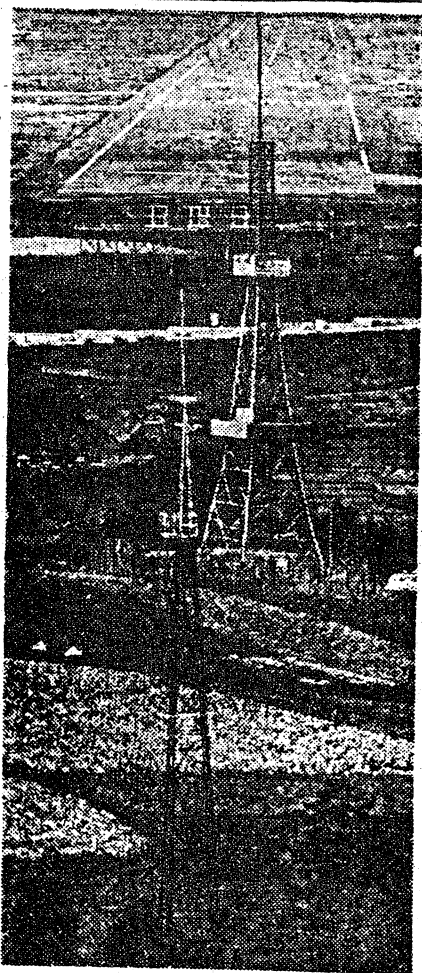
機道撤去の準備作業すべて完了させようとする計画であり、機道撤去の



# たとえ鉄塔を撤去しても...

## 成田空港開港

# 相模不良



清走路の延長線上に建てられた二本の鉄塔 = 成田空港で

### 燃料カギは千葉コース 狭い道路が問題 バス

千葉県に新東京国際空港を建設する一との協議決定がなされて二年、成田空港では十九日、開港への最大の障害である鉄塔と、開港のための道路の両方、成田市の手始めに、千葉県での交渉でも、開港まではまだかなりの開港が山積している。燃料輸送問題、乗客を空港へ運ぶ鉄道、税関の専用車道の道路の整備。二つの主要な問題を解決して、開港の準備が完了する。府のこの秋の開港までは、まだかなりの開港が山積している。

開港への難問・障害			
問題点	現状	解決の見通し	
鉄塔撤去	鉄塔	空海反対派が死守の構え、撤去の動き。清走路の南端に第一、第二	撤去のためには法的に仮処分申請と、取り壊し作業の必要。取用道路。
	取用道路	本来、保安施設の建設、その後の完成部分でも、反対派が衝突流血の騒ぎとなつた	この道路を完成させたうえで、撤去させるのが公団の方針。その前提を知る反対グループは当然、力による抵抗で対する
	仮処分	道路の完成を待って千葉地裁に申し立てる	開港のための整備の必要性、緊急性が認められなければならないが、航空法による違法建築物であることが主な理由
燃料	鹿島石油基地	パイプラインでの輸送のメドがたつた。開港してから三年間、千葉、茨城の2ルートで行う貨物輸送。今年7月51年10月未定、今年7月には完成の予定	安全や地元開港への協力がない。公団は地元と約束を果たさねばならない
	貨車輸送と地元	51年7月22日、消防車の設置などの安全面を条件に鹿島ルートは協定が成立	千葉ルートの本格的な話し合いはこれから。千葉側が出た方が有利で、国も積極的にこれに対応する方針。公団が、コナシが千葉市内の住宅地を通り、住民の強い反対が予想される
道路	成田新幹線	成田駅の整備、同駅と空港間のバス輸送が具体化している。10%も離れているので問題だ	駅舎の建て直しについて地元との問題が解決してはいない。バス発着場も現状では不十分
	京成電車	ターミナル部分は建設された。路線の用地買収、測量が完了せず	これが完成しないと旅客の大規模輸送に支障。沿線住民の反対で、いつになるか見通しはたつていない
	高速度道路	新幹線(7.2%)は完成。海外旅行者関係の大形手荷物輸送が考えられていないのが難点	手荷物輸送システムを模索中だが、実現のメドはまだ
空港施設	フライトチェック	鉄塔撤去待ち	飛行場の施設が正順に機能するかどうか調べる。飛行機は運送設備では飛行機を飛ばす。各種のテストは1か月は必要としている
	実熱飛行	フライトチェック待ち	日本のパイロットは、新空港を正式に飛行することを定められている。日航のパイロットは約400人。全員が卒業するにはかなりの日数を要する
	清走路とナールビル	清走路にはビロレが出来ていない。各種の設備も揃っていない	公団ではビロレの補修やナールビルは、フライトチェック前に大急ぎで済ませる

成田空港は、便数の増加と利用客の増大でパンク状態になった東京・羽田の東京国際空港に代わる新空港として発表された。四十年十一月、千葉県の富里村に内定したが、反対運動が起り、木更津市、浦安市、茨城県・習志野市、二里に決裂した。四十二年七月、二里に決裂した。二里に決裂した。二里に決裂した。

成田空港は、便数の増加と利用客の増大でパンク状態になった東京・羽田の東京国際空港に代わる新空港として発表された。四十年十一月、千葉県の富里村に内定したが、反対運動が起り、木更津市、浦安市、茨城県・習志野市、二里に決裂した。四十二年七月、二里に決裂した。二里に決裂した。

成田空港は、便数の増加と利用客の増大でパンク状態になった東京・羽田の東京国際空港に代わる新空港として発表された。四十年十一月、千葉県の富里村に内定したが、反対運動が起り、木更津市、浦安市、茨城県・習志野市、二里に決裂した。四十二年七月、二里に決裂した。二里に決裂した。

成田空港は、便数の増加と利用客の増大でパンク状態になった東京・羽田の東京国際空港に代わる新空港として発表された。四十年十一月、千葉県の富里村に内定したが、反対運動が起り、木更津市、浦安市、茨城県・習志野市、二里に決裂した。四十二年七月、二里に決裂した。二里に決裂した。

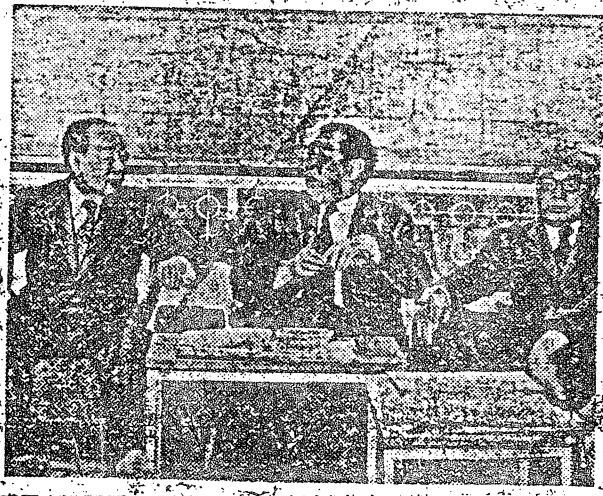
# 「成田」年内開港に全力を

## 内政の最優先事項

### 首相予算措置など指示

11月 17日 読売

政府は十七日、成田空港も出立して、千葉県の成田新空港問題関係閣僚会議を開き、大規模開港計画の成田新空港の建設問題について、意見を交換した。その結果、首相は「年内に成田新空港の建設に努力せよ。建設費は政府の負担とする。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。」



成田空港問題で話し合う(左から)首相、田村運輸相、防衛相

成田新空港の建設は、先般、川上運輸相の提議を受けた首相の指示に基づき、閣内閣外で協議された。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。

成田新空港の建設は、先般、川上運輸相の提議を受けた首相の指示に基づき、閣内閣外で協議された。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。

成田新空港の建設は、先般、川上運輸相の提議を受けた首相の指示に基づき、閣内閣外で協議された。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。成田新空港の建設は、成田問題の解決に重要な役割を演ずる。

# 田の 成 工事再開

# 合らみの中に雪粉

## 反対派も妨害自重

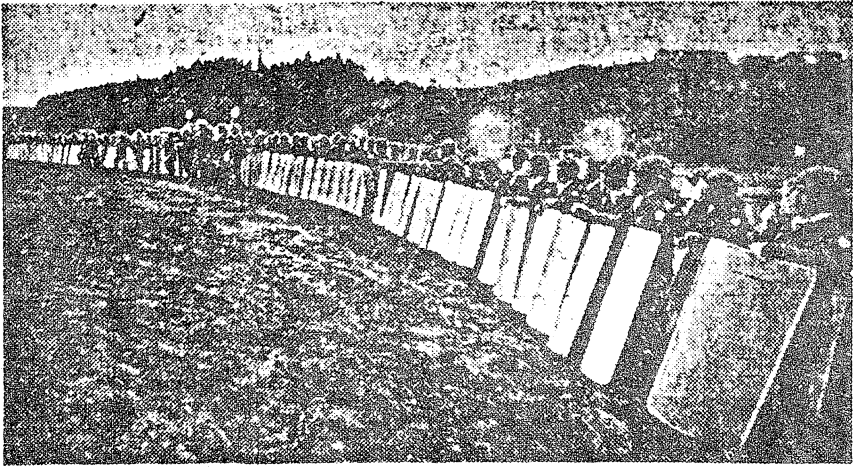
### 機動隊 厚い壁 作業、順調に進む

最低気温零度。夜明け前のほの暗い北総各地に白い粉雪が舞った。新東京国鉄空港線開通の最大の「難関」と目せられていた、千葉県山武郡芝山町の三里塚・芝山連合空港反対同盟(白村一作委員長)の二重の防壁を機動隊が午後九時、順調に突破した。機動隊の厚い「壁」に守られ、きわめて順調に進んだ。予想された反対派学生の手探しの「壁」を突破する反対派の叫びが、ほろりと響いた。「鉄壁突破」の前より作業は、静かにならざるを得ない状況で進んだ。

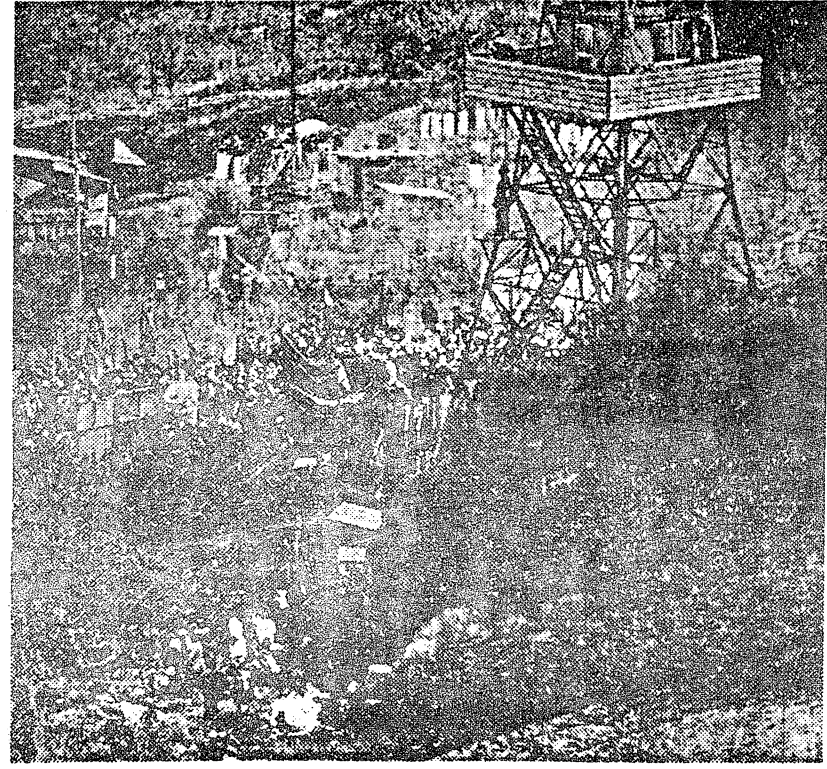
反対派学生は、午前四時半ごろから芝山連合空港反対同盟の本部に集まり、機動隊の厚い壁を突破しようとする。機動隊は、厚い壁を突破しようとする。機動隊は、厚い壁を突破しようとする。機動隊は、厚い壁を突破しようとする。

七時半には、いよいよ道路脇の山裾に機動隊の大型トラックが到着した。機動隊は、厚い壁を突破しようとする。機動隊は、厚い壁を突破しようとする。機動隊は、厚い壁を突破しようとする。

反対派の動きを警戒してずらり並んだ機動隊。反対派の動きを警戒してずらり並んだ機動隊。反対派の動きを警戒してずらり並んだ機動隊。反対派の動きを警戒してずらり並んだ機動隊。



反対派の動きを警戒してずらり並んだ機動隊=19日午前6時すぎ、千葉県山武郡芝山町で



鉄塔下のシヤを燃やして工事反対の集会を開く反対派=19日午前7時30分、千葉県山武郡芝山町で

# ボルシエヴィキ創刊号

## 絶賛発売中!

政治報告

マルクス・レーニン主義の革命党建設へ更に前進せよ!  
「遠方派」の放逐と我々の到達段階

共産主義者同盟中央委員会

第一部 綱領思想と資本主義・帝国主義批判

資本主義批判・帝国主義批判と唯物史観

山下 誠  
沖田友士

第二部 過渡期世界の階級闘争とプロレタリアート

日本資本主義における天皇制権力と  
プロレタリアートの権力問題

山下 誠

過渡期世界の革命戦争と軍樂—武装問題の基本的視座

一条論文—大衆的武装闘争の戦略問題—の根底的止揚  
共産主義者の労働者運動に対する組織と戦術

沖田友士  
郷原 峻

定価 一五〇〇円

A5判 四〇八頁

申し込み先 游撃社

東京都世田谷区千歳郵便局私書箱第四号  
振替 東京〇—一九五七八三

第三部 侵略反革命、差別分断支配に抗するプロレタリア

一トの諸任務—綱領の実践的分野における諸問題

共産主義運動の大道を進み沖繩解放闘争の  
巨大な地歩を獲得せよ

狭山上告審闘争に完全勝利し、共産主義運動と  
部落解放闘争の革命的結合を勝ちとれ

共産主義運動と結合した女性解放運動の確立と  
深化発展にむけて

第四部 侵略反革命、権力再編に抗するプロレタリアートの  
諸任務—綱領の実践的分野における諸問題

破防法体制粉砕に向け反弾圧戦線の更なる強化を  
プロレタリア陣型としてかちとれ

生協戦線における階級闘争の原則とその陣型構築

の論理と実践—地域住民運動と生協運動総括—  
学生戦線に党の陣型を強固に打ち固めよ!

大政同論の止揚と反帝戦略主義の学生戦線における克服

共産主義革命戦線  
沖繩解放委員会

共産主義革命戦線  
部落解放委員会

共産主義革命戦線  
女性解放委員会

共産主義革命戦線  
学生委員会

林 駿介

桜田 潤

— 雜刊 1977.4 —

共產主義革命戰線中央書記局

— TEL. 03-362-3679 —